

## II 研究の実際

### 1 学力充実部会の取組

#### (1) 「甲佐中 1時間の授業の流れ」の共通理解

甲佐中では毎時間の授業において、以下のような基本的な学習の流れを示し、全職員で共通実践を行っている。昨年度から1学期の学力向上対策の重点取組として、全職員で授業スタイルを徹底するようにした。今年度は、1時間の授業における時間の目安を追加し、「まとめ」、「振り返り」の時間を確実に確保できるように全職員で意識するようにした。ただし、本時の学習内容によっては流動的になることもある。

#### 「甲佐中 1時間の授業の流れ」(甲佐中授業スタイル)

導入 (5分)	黙想－授業の開始 ※チャイムで黙想開始	チャイムの前に教室に行き、授業準備の確認をする。
	①導入・前時の復習(もう一度確認させる) ・教材の提示(学習への興味、関心を高めるもの)	基礎的・基本的な知識、技能の徹底。
展開 (30分)	②めあての提示 本時で何がわかればよいのかを明確にする。	本時の主眼(授業のねらい)から → まとめ → めあての順に毎時間のめあてを設定する。 ※「まとめ」から「めあて」を考える。
	③展開－中心的活動 【各教科の基礎・基本的内容】(教師) 【学び合いの場】(生徒) 自分の考えを持つ。→ ペアやグループで意見や考えを交換する。→ 意見や考えを全体に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いの基本は自分の考え・意見と比べながら「聴く」。</li> <li>・各教科の学び合いのとらえ方</li> <li>・ペアやグループ活動で、すべての生徒を学習に巻き込み、学習内容の広がり・深まりにつなげる。</li> </ul>
終末 (15分)	④まとめ	「めあて」と「まとめ」の整合性を図る。
	⑤まとめ終了後、必ず振り返りをする。 振り返りの例：適用問題、自己評価 他者への説明等	「何が分かったのか」「何ができるようになったのか」を生徒自身が実感できるようにする。

## (2) 各教科における学び合いのとりえ方の共通理解

各教科での学び合いのある授業について、「学び合いのとりえ方」、「学び合いがある生徒の姿」、「学び合いを実現する手立て」の3点を共通理解した上で、一覧表（表1）にまとめ各教科の授業実践を行った。

表1 各教科の学び合いについての一覧表

教科	学び合いのとりえ方	生徒の姿	手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視点を与えて考えさせ、それぞれの考えをグループで共有する。</li> <li>○グループで助言したり様々な意見を出し合うことで、自分の考えを広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何もしない生徒がいない姿がある。</li> <li>○全員が考えを持つ。</li> <li>○考えの変容が見られる。</li> <li>○意見の交流をする。</li> <li>○人の話を聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考えを持たせるために考える視点を与える。</li> <li>○グループで意見を共有するための手順を明確にする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が課題や学習内容の整理に取り組み、発表活動を通して、情報共有を図り、内容理解のスキルアップを図る。(スモールティーチャーの育成によるグループの指導ではない)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ内での情報交換や協力した作業の姿がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループによる重要語句の確認をする。</li> <li>○2時間、2単元をまとめた学習計画</li> <li>第1時 単元の内容をグループでまとめる。</li> <li>第2時 まとめの発表・質疑 教師によるフォロー</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教え合いによる基礎基本の定着を図る。</li> <li>○発展的な内容の解決につながる既習事項の確認ならびに解決方法を生徒同士が伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒同士が解法を教え合い、苦手な生徒も問題を解決していく姿がある。</li> <li>○課題に対して複数の解決方法から、よりよい解決方法を導き出すために練り合う姿がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ活動による練習問題の演習</li> <li>○生徒の意見をつなぐ、声かけ・発問</li> <li>○課題提示の工夫、教材の難易度の工夫</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人の考えを班で出し合い、班の考えを学級に伝える。</li> <li>○実験の準備、操作を協力して、教え合いながら行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が実験や話し合いに参加している姿がある。</li> <li>○実験の準備や操作の中で間違っているところを指摘し、教え合う姿がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のはじめに調べ学習を行い、グループごとに発表する。</li> <li>○実験結果をホワイトボードにまとめ発表する。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○可能な限りペア、グループ活動を行う。</li> <li>○既習事項を表現し合う、訂正し合う、指摘し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の想いを英語で話せる姿がある。</li> <li>○自由英作文にチャレンジしている姿がある。 (いずれも表現の基となる型を覚えさせる必要がある。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が自ら動けるように、授業展開をパターン化、ルール化する。</li> <li>○指示を簡潔にし、生徒がやるべきことを分かっている状態にする。</li> <li>○自然に英語をゼロからつくることはできないので、表現の基となる型を与え覚えさせる。</li> </ul>

音楽 美術 保体 技家	○仲間と協力して技能等の向上を図る。 ○よいものを作り上げるといふ目標に向かってまとまる。 ○最適解を考える。 個→グループ→全体	○アドバイスが活発に行われ多様な意見が出る姿がある。 ○役割分担を工夫したり、相手のことを考えたりして、生徒が主体的に活動している姿がある。	○「めあて」の達成に向けての工夫 視聴覚教材、ワークシート、場の工夫 ○システム思考 様々な視点、立場を考慮した最適解を導く。 ○リーダーの育成
せせらぎ (特別支援 学級)	○2人以上の集団で学習していくとき、お互いの姿(発言、姿勢、行動)を見ていく中で学んでいく。	○得意なことをみんなの前で発表することにより、意欲を出し、苦手であっても表現していく姿がある。 (上手な生徒のまねをして一緒に取り組んでいる姿)	○自立活動、生活单元などの学習の場、機会をつくる。(個に応じた支援を行いながら)

### (3)「振り返り」の活動の共通理解

「振り返り」の活動において、生徒自身が「何が分かったのか」という学習内容の振り返りや「何ができるようになったのか」という自己の変容を促した。その方法として、自己評価や他者への説明を取り入れた。また、本時のねらいに応じた適用問題を行うことで学習内容の定着や振り返り、「分かった」「できた」を実感し、学習意欲の向上につなげた。

次に示すのは「振り返り」を引き出す問い方と数学科における適用問題の例である。

#### 【学習内容】についての問い方例

- 今日の学習で何が分かりましたか？
- もっと調べてみたいことは何ですか？

#### 【自己変容】についての問い方例

- 授業の前後で自分の考えがどのように変わりましたか？
- 何ができるようになりましたか？

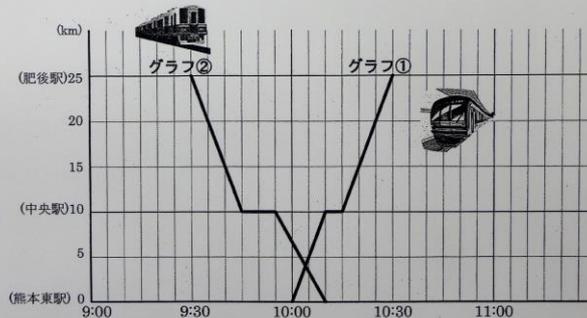
第2学年数学 本時の目標：1次関数のグラフを利用して、問題を解決することができる。

右の問題を授業終末の適用問題として活用し、グラフを利用して問題を解決する良さを、生徒に感じさせることができた。

(平成28年度 熊本県学力調査問題より一部抜粋)

4 たかしさんは、熊本東駅・中央駅・肥後駅の3つの駅の間を動く2つの列車の動きを表した下の図を見ている。

グラフ①は、列車①が10時00分に熊本東駅を出発し、10時10分に10km離れた中央駅に到着し、そこで5分間停車した後に再び出発し、10時30分にさらに15km離れた肥後駅に到着したことを表しています。



#### (4) 授業公開週間、研究授業の充実

職員同士も「学び合い」ということで、授業公開週間を設定した。授業公開週間の目的や方法は下のとおりである。

- |   |    |   |   |
|---|----|---|---|
| 1 | 目的 | お互いに授業を参観することで、授業改善のヒントを得て、自分自身の授業改善に生かす。授業者は参観者からの助言等を今後の授業改善につなげるようにする。 |   |
| 2 | 期間 | 2学期   | 9月11日(月)～9月15日(金)<br>11月20日(月)～12月1日(金) |
|   |    | 3学期   | 1月29日(月)～2月2日(金)                        |
| 3 | 方法 | ①授業公開週間に最低2コマの授業を参観する。<br>②時間的に厳しいときは、最低20分程度でもよい。<br>③授業の指導案、略案は不要とする。   |   |

授業公開週間では、参観者は参観シート(図2)を持参し、記入後は授業者に渡すようにしている。授業公開週間中は、気軽に授業参観がしやすいため、参観した授業後には、授業者と参観者の間で意見交換が行われるようになった。



公開授業の様子

**授業公開週間/授業参観シート** 参観者氏名 ( )

11月29日 3校時

先生の (教科名) 英語

◎メモ欄(自分自身の授業に生かせるヒントを記述しましょう。)  
例: 興味関心を高める導入の工夫、ICT機器の使い方、振り返りや適用問題の工夫等。

- テンポの良い反復練習で徹底指導を行っていた。
- 生徒たちの意欲の高さ、積極性をとても感じた。

授業者に以下の点について返しをしましょう。

(1) 授業のよい点、ほめたいこと、自分にとって参考にしたいところ

- 導入時にスムーズにいけず、時間があかぬけようとしたので、リズム良く進める所が非常に参考になった。

(2) 授業者に質問したいこと。

- 今日は一斉授業でしたが、少人数でも同じような流石で導入を展開しているのでしょうか？

(3) その他

- 他教科の授業はめいり参観することはないので、貴重な学びとなりました。ありがとうございました!!

図2 授業参観シート

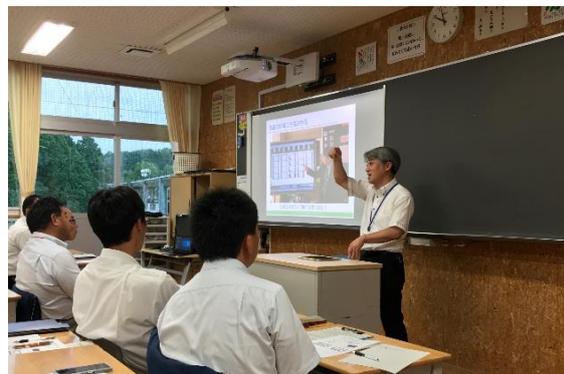
授業公開週間だけでなく、学期に1回全職員が参加した研究授業を行っている。研究授業後の研究会ではワークショップ形式の全員参加型で行い、全ての職員が目的意識を持つとともに、授業改善に生かせるようにしている。各グループのテーブルに、指導案の展開部分を拡大したものを準備し、参加者が付箋紙に気づきを記述し、貼り付けていくことで、自由に意見交換ができるようにしている。



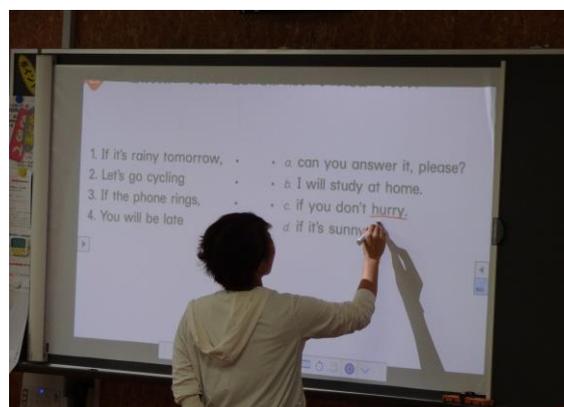
授業研究会の様子

### (5) ICTの活用

本年度6月に全ての普通教室にプロジェクター型の電子黒板が導入された。1学期末から夏休みにかけて、ICTの効果的な活用法や基本的な使用方法等の校内研修を行い、2学期より、「まずは使ってみる。」を合い言葉に授業で積極的に使用するようにした。効果的な活用という点においては、まだまだ十分ではないが、各教科の授業でICTを活用した授業が行われるようになってきた。



ICT活用に関する校内研修の様子（夏休み）



2学期授業でのICT活用の様子

## (6) 家庭学習の充実

本年度の家庭学習は生徒の実態を踏まえて、自主学習ノート（以下自学ノート）2ページの徹底に取り組んでいる。家庭学習の習慣が身につけておらず、計画的に学習を進めることが苦手な生徒もいる。そのような生徒のために、今年度から、家庭学習強化週間を設定し、帰りの会の時間の10分間を自主学習タイムとして家庭学習の計画を立てたり、実際に自学ノートに取り組んだりしている。

次に示すのは、職員で共通理解を図った自主学習タイムの流れである。

<b>自主学習タイムの流れ</b>			
時間	担当	内容	指導（徹底）
昼休み前までに	時間割	次の日の教科を掲示する。	○明日の時間割掲示ができる場所を確保 ※ホワイトボードに2日分の時間割を掲示できるようにする。
授業後	教科係	①教科担任に連絡を聞きに行く。 ・次の授業の準備物 ②次の日も授業があれば教科連絡を書いておく。	○初めのうちは教科係を呼んで確実に内容を伝えるようにする。 ○初めのうちは各教科担任で確認する。 ○昼休みまでに書いてあるか担任が確認する。
昼休み	教科係	授業後の確認ができていなければ確実に終わらせる。	○担任が時間割掲示を確認し、係への指導を徹底する。
6時間目終了後	全員	帰りの準備を素早く行う。	○チャイムで授業を終わる。 ○移動を早くさせる。
自学タイム開始 6時間授業 16:05 5時間授業 15:05	全員	チャイムと同時に開始 ・10分間で家庭学習の計画を立てる。 ・実際に自学に取り組む。	○自学タイム開始のチャイム前に担任は教室で待ち指導・確認をする。担任以外は定着するまで廊下等で指導。 ○開始チャイムまでに配付物を配付できない場合は一旦中断させ、自学タイム後に配る。 ○自学の準備ができて帰りの準備も間に合う場合は帰りの準備をさせる。 ○チャイムがなったら、全員座った状態で自学をスタートさせる。
自学タイム中	全員	1, 2年は左ページにプリント学習。 終わったら右ページに、今日の授業の復習を中心に行う。 3年は、左ページに各教科担任からの家庭学習の指示に沿って行う。 月…国 火…社 水…数 木…理 金…英	○全クラスが「静」の状態ですべての生徒が自学に取り組む。 ○担任は机間指導を行い徹底させる。
自学タイム終了	全員	○帰りの会を行う。	○配れなかった配付物等を配る。

(7) 朝学習の取組，甲佐カップ基礎テスト

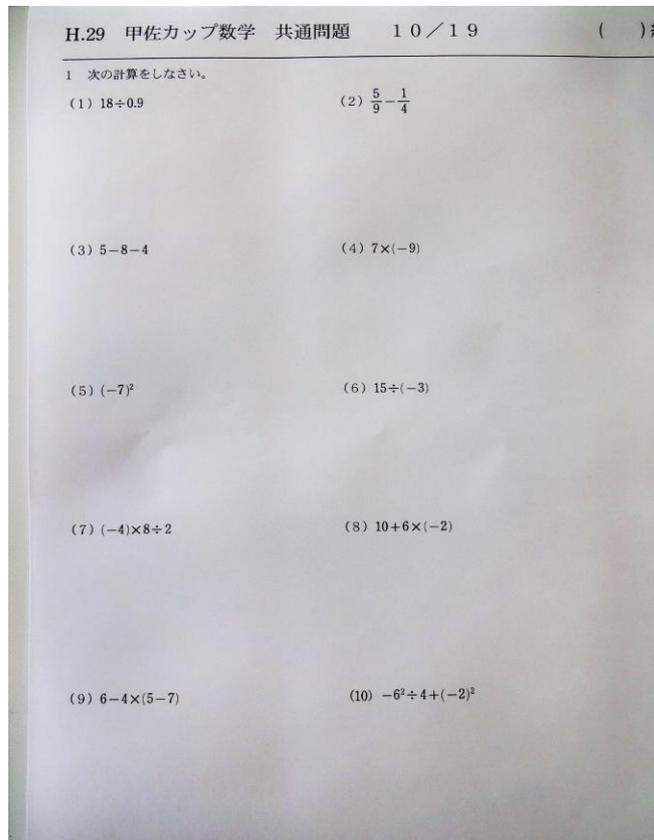
本校では，8時10分から20分間の朝学習を行っている。学習の方法としては，20分間の2回を1セットとし，1回目は練習問題に取り組む。2回目は練習問題の中から問題を選択し，テスト形式で行っていくものである。学習内容としては，主に5教科の基礎的な知識・技能の習得を中心的に行っているが，2学期には，全国学力・学習状況調査やゆうチャレンジの単元別評価問題や過去の問題も活用し，思考力・判断力・表現力の育成を図っている。

「甲佐カップ基礎テスト」とは，朝学習の時間を活用し，5教科（国語・社会・数学・理科・英語）の基礎的・基本的内容の練習問題を数回学習し，後日テストを行う。クラス全体の正答率の平均で全学年を競わせることで学習意欲や意識を高めることを目指している。7月の国語をスタートとして，10月数学，12月社会，1月英語，2月理科と時期をずらし，できるだけ全学年共通の問題を使い，中学校で身につけるべき基本的な知識・理解を徹底するようにしている。7月の国語の基礎テストでは，全学年共通の漢字のテストを実施した。また10月の数学は，全学年共通の計算問題を20問，特に今年度全国学力・学習状況調査の中で，本校の課題であった問題を出題し，1，2年生にもチャレンジさせた。

甲佐カップ 国語の問題

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	甲佐カップ基礎テスト 傍線部の漢字をひらがなで、カタカナを漢字で書きましょう。必要であれば送り仮名も書きま
エイガを見に行く	水不足のタイサウを練る	チイキ住民の意見	列車のジコク表	エイヨウ気象が続く	作家の生誕百年祭	勝利は必至だ	海底の様子を知らず	真紅のバラの花	罪悪を流れる景色	先祖の供養をする	老若男女が集まる。	揮発性の液体	洋銅をならう	若干の差がある	
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	
ピアノのエンソウ	木製のつくえ	センモン家の意見を聞く	カンタンに勝負がつく	セイダイなパーティー	時計のねじをまく	経営の村ウシを語る	かぶシ会社を設立する	適切なジョウチをする	領土をフンカツする	四万人の大カシシユウ	文字をボクダイする	予防チユウシヤをうける	雨天のため出発がのびる	シセンをそらす	
45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	
ケンポウの三大理念	ナイソウの検査をする	きぬ織物の産地	幸福のセツチヨウ	はげしい争いに勝つ	職務にチユウジツだ	火災ケイホウが鳴る	ソウリツ記念日	学問のタイケイ	オンダンな気候	商社にキムする	とてもむずかしい問題	ドキヨウがある人	社員にチンキンをはらう	知識をキユウシユウする	
															45点

甲佐カップ 数学の問題



今年度の甲佐カップ基礎テストの正答率（各教科の満点に対する各学年の平均点の割合）を学年ごとに比較してみた。

	国語 7月実施	数学 10月実施	社会 12月実施	英語	理科
1年生	87.8%	60.5%	77.6%	1月末実施	2月実施
2年生	78.9%	89.1%	73.6%	1月末実施	2月実施
3年生	88.0%	88.0%	82.6%	1月末実施	2月実施

この結果から分かることは、3年生では、どの教科においても事前に練習問題に徹底して取り組ませたり、家庭学習の課題にしたりするなどの取組の成果が出ていることである。2年生においては、国語、社会で正答率が低く、漢字や重要語句を徹底して覚えることに課題が見られた。そのことを受けて、各教科で合格点を設定し、不合格者には再テストを行い、補充学習を行った。1年生においては、数学の計算に大きな課題が見られた。このことから授業の最初に計算練習を10月から取り入れ、基礎・基本の定着を図っているところである。